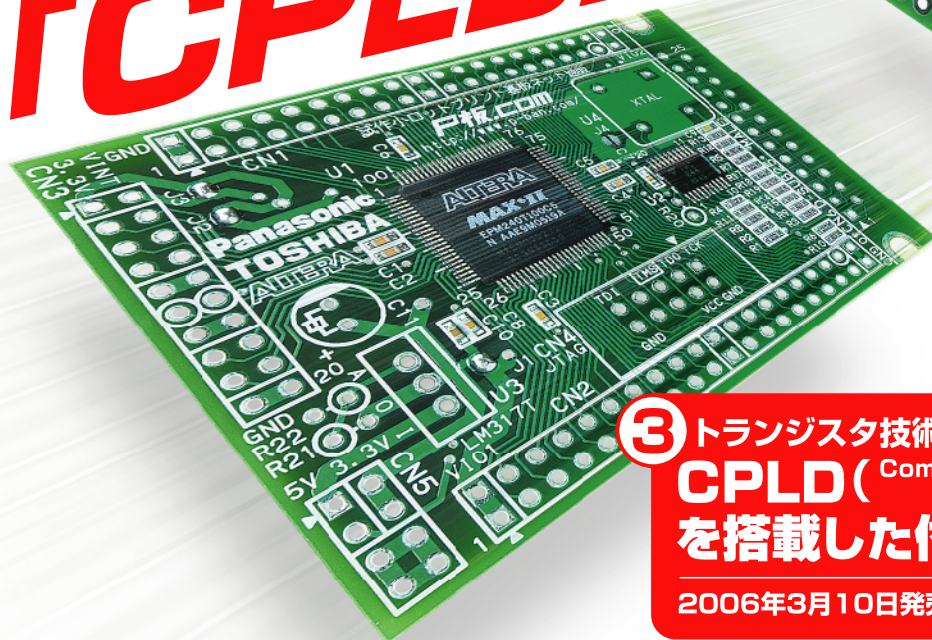
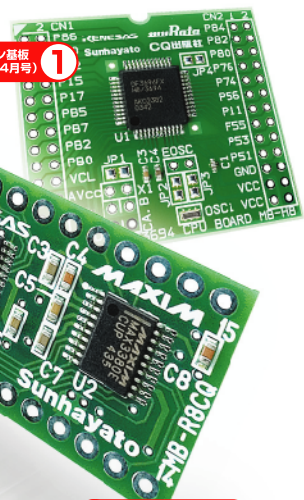


# 今度 「CPLD」だ!



H8マイコン基板 (2004年4月号) ①

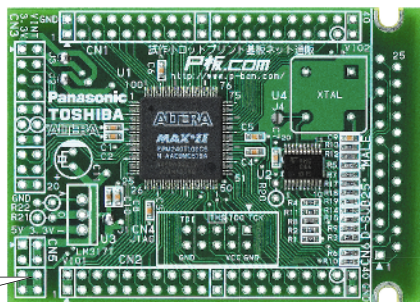


R8Cマイコン基板 (2005年4月号) ②

③ トランジスタ技術 2006年4月号は、**CPLD (Complex Programmable Logic Device)** を搭載した付録基板付き!  
2006年3月10日発売 予価1,000円(税込み)

CPLDは、内部の回路を自由に構成できるデジタルICで、マイコンやOPアンプなどと同じように、電子回路を構成するうえで欠かせないデバイスのひとつです。このCPLDの使いかたをマスタすると、自分の要求にぴったりのデジタルICを作ることができます。部品箱にCPLDを入れておけば、希望のデジタルICが見つからないときなどに役に立つことでしょう。同号と5月号では、付録基板の動かしからデジタル回路設計の基礎、そして各種応用事例までをじっくり解説する予定です。付録CD-ROMには、アルテラ社製のCPLD開発環境である“Quartus II Web Edition”のほか、関連ツールやドキュメント、特集関連データを収録する予定です。この1冊で、デジタル回路設計の世界をすぐに体験することができます。

【付録CPLD基板の主な仕様】 ●CPLD:アルテラ社 MAX II (EPM240T100C5) ●ロジック・エレメント数240,最大ユーザI/O数80本 ●ダウンロード回路:基板上に組み込み済み ●動作電圧:3.3V ●プリント基板:1.6mm厚,両面スルー・ホール仕様 ●サイズ:70[D]×50[W]mm



\*写真の基板は開発中のものです。

CPLD 活用のヒント 第1回

## 文字をたくさん表示できる電光掲示板を作りたい!

——でもワンチップ・マイコンじゃI/Oポートが全然足りない……。

こんなときは、

ワンチップ・マイコンに本付録基板を接続すると、I/O数を80本も増設できるので、たくさんのLEDも駆動できます。またダイナミック・スキャンをハードウェアで実現できるので、マイコンの負荷が減るだけでなく、ちらつきも抑えられます。



年間予約購読をお勧めします。

発売後の品切れが予想されますので、確実にお手元にお届けする年間予約購読をお勧めします。ぜひこの機会に、年間予約購読をご検討ください。